

対応状況報告書

大 学 名： 徳島大学

評価実施年度： 令和元年度

報 告 年 度： 令和4年度

対象となる基準	基準5－3																												
改善を要する点	○医科学教育部修士課程医科学専攻、薬科学教育部博士課程薬学専攻において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている。																												
対応状況	<p>・医科学教育部修士課程医科学専攻：0.68倍（平成30年度から令和4年度（春期）） （平成27年度から令和元年度については0.62倍）</p> <p>医学部・医学研究科ホームページでの情報発信など、学内外への広報を継続している。特に近年、医工(光)連携の取り組みにより、理工学部卒の入学者・進学者が一定程度見込まれることに着目し、最先端の光科学研究を行っているポストLEDフォトンクス研究所教員を兼任している医学部・医学研究科の教員からも修士課程学生募集の周知を行うなど、効果的な広報活動を展開している。その他、学生を構成メンバーに含む「教育プログラム評価委員会」において、現教育プログラムの点検・改善に取り組み、魅力的な教育プログラムとなるよう工夫を重ねている。また、各種奨学金制度の案内や民間団体による助成金・奨学金への申請のサポート等を行い、入学後の学生の経済的負担軽減を図ることで、学生が学修や研究に集中できる環境作りに努めている。</p> <p>上記の対応及び、秋入学を含め年複数回の学生募集を行い、入学定員の充足に努めてきた結果、定員10名に対する入学者は、令和3年度は10名、令和4年度（春期）は8名と、改善の傾向にある。</p> <p>充足率の推移</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4 (春期)</th> <th>5年平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学者数</td> <td>5人</td> <td>5人</td> <td>6人</td> <td>10人</td> <td>8人</td> <td>6.8人</td> </tr> <tr> <td>入学定員</td> <td>10人</td> <td>10人</td> <td>10人</td> <td>10人</td> <td>10人</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>0.50</td> <td>0.50</td> <td>0.60</td> <td>1.00</td> <td>0.80</td> <td>0.68</td> </tr> </tbody> </table> <p>※充足率＝実入学者数／入学定員</p>		H30	R1	R2	R3	R4 (春期)	5年平均	入学者数	5人	5人	6人	10人	8人	6.8人	入学定員	10人	10人	10人	10人	10人	-	充足率	0.50	0.50	0.60	1.00	0.80	0.68
	H30	R1	R2	R3	R4 (春期)	5年平均																							
入学者数	5人	5人	6人	10人	8人	6.8人																							
入学定員	10人	10人	10人	10人	10人	-																							
充足率	0.50	0.50	0.60	1.00	0.80	0.68																							

・薬科学教育部博士課程薬学専攻：0.60倍（平成30年度から令和4年度（春期））

（平成27年度から令和元年度については0.45倍）

学部入学直後からガイダンスで大学院進学への啓発活動を行い、1年次授業「研究体験演習」では各研究室において最新の研究体験を行い、3年次から研究室配属することで研究力の醸成を行っている。また、募集要項の公表の時期に合わせて当該学年へ大学院進学説明会を開催している。その他、博士課程学生を支援するうずしおプロジェクト及びひかりフェローシップ（令和3年度から運用開始）や、本教育部独自の奨学金（寄附金（藤多・高石創薬基金）を活用し、令和4年度から運用予定）の創設を行っている。また、日本学術振興会特別研究員（DC1/DC2）、民間財団による助成金・奨学金への申請書作成等のサポート体制を整え、入学後の学生の経済的負担軽減を図ることで、学生が学修や研究に集中できる環境作りに努めている。

上記の対応及び、秋入学を含め年複数回の学生募集を行い、入学定員の充足に努めてきた結果、定員4名に対する入学者は、令和3年度は4名、令和4年度（春期）は2名と改善の傾向にある。

充足率の推移

	H30	R1	R2	R3	R4 (春期)	5年平均
入学者数	4人	1人	1人	4人	2人	2.4人
入学定員	4人	4人	4人	4人	4人	-
充足率	1.00	0.25	0.25	1.00	0.50	0.60

※充足率＝実入学者数／入学定員

※令和4年度より「大学院医科学教育部」・「大学院薬科学教育部」から「大学院医学研究科」・「大学院薬学研究科」へ名称変更

【根拠資料・データ】

認証評価共通基礎データ様式【大学用】様式2（令和4年5月1日現在）（抜粋）

(注)

1. 機構で受けた大学機関別認証評価において、「改善を要する点」として指摘された事項の対応状況について記入してください。
2. 「改善を要する点」には、評価結果報告書の「Ⅱ 基準ごとの評価」の【改善を要する点】に記載された内容をそのまま転記してください。
3. 「対応状況」には、「改善を要する点」として指摘された事項に関して改善された状況の具体的な内容及びその改善を実現した取組について、根拠資料・データ等とともに「対応状況」欄に記入してください。
4. 根拠資料・データ等は、その名称を記載のうえ、別添として添付してください。評価結果の追記公表の際に併せて公表しますので、資料番号については、既存資料と重複しないよう、既存資料の資料番号以降の連番としてください。
5. 評価を受けた年度の翌年度を一年度目として起算した場合の三年度目の6月30日までに改善していると判断していない事項については、対応状況欄にその旨のみを記載してください。